

理學博士 山 本 一 清 主 幹

天 界

(第 23 卷)

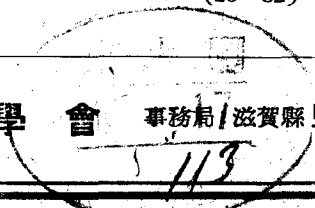
第 2 6 9 號

昭和18年

年末研究特輯號要目

| | | |
|--|-------------|---------|
| 卷頭隨筆 時局と太陽研究のことなど..... | 山 本 一 清 | 341 |
| 占星術と天文學との關係, その歴史 (2, 完) | 吉 岡 修 一 郎 | 344 |
| 冬の星 (8句) | | 347 |
| 第20世紀の彗星に關聯する流星群について [紀要88號] 齋 藤 馨 兒 | 齋 藤 馨 兒 | 348 |
| 海軍と天文..... | 塚 本 朋 一 郎 | 357 |
| 私の紅焰觀測..... | 伊 達 英 太 郎 | 358 |
| 新彗星の發見..... | | 361 |
| 月蝕の豫報計算 (4, 完) | 熊 切 一 男 | 362 |
| “天文年鑑” は..... | | 368 |
| 火星觀測面時刻と中央經度との相違について..... | 薦 田 一 吉 | 369 |
| 珍貴な資料 “陣鐘” | 津 田 雅 之 | 371 |
| 小遊星と其の觀測方法..... | 山 本 一 清 | 374 |
| 星の溫度..... | A. H. ジ ョ イ | 379 |
| 大東亞戰と天體..... | 小 嶋 時 久 | 382 |
| 會 告 | | 389 |
| 牛座の運動星群..... | R. J. トランブラ | 387 |
| 標準天文用語表 (21)..... | | 390 |
| 觀測部月報: 遊星面・太陽・流星..... | | 392 |
| 編輯室より | | 397 |
| 1944年一月の天象..... | | ④ |
| 別ぐみ頁: ニウカム球面天文學要綱 [5] | | (25—32) |

本部: 田上天文臺 東 亞 天 文 學 會 事務局/滋賀縣 堅 田



東亞天文學會

| | | |
|---|----------------------------------|---|
| 會長 副會長 理事 專務理事 教育部長 報導部長 | 山本 一成 木宮 森作 中村 武夫 高山 本一 | 清水 眞一 觀測部長 木邊 成麿 經理部長 美田 爲三 理事(無任所) 小槇 孝二郎 |
|---|----------------------------------|---|

本部所在地 田上天文臺(滋賀縣栗太郡上田上村)内
事務局所在地 滋賀縣堅田局區内
經營する天文臺 倉敷天文臺(岡山縣倉敷市), 黃道光觀測所(廣島縣沼隈郡瀬戸村)
大阪支部所在地 大阪市立電氣科學館プラネタリウム内(大阪市四ツ橋)
臺灣支部所在地 臺北市公會堂内

觀測部

1. 流星課 (課長 和歌山縣有田郡金屋 小槇孝二郎, 幹事 齋藤馨兒)
2. 彗星課 (課長 田上天文臺 山本 進)
3. 小遊星課 (課長 山本一清)
4. 變太陽課 (課長 木邊成麿, 幹事 小澤喜一)
5. 黃道光課 (課長 缺, 幹事 靜岡縣志太郡吉永村吉永1768 大石辰次)
6. 豫報課 (課長 田上天文臺 山本一清, 幹事 倉敷天文臺 本田實)
7. 機械課 (課長 山本一清, 幹事 神田壹雄)
8. 寫真課 (課長 滋賀縣野洲郡中里村 木邊成麿)
9. 遊星課 (課長 天津市鹿關町 堀井政三)
10. 遊星班 (課長 伊達英太郎, 幹事 佐伯恒夫, 木邊成麿)
 火星班 (班長 兵庫縣川邊郡雲雀丘 伊達英太郎)
 木星土星班 (班長 大阪市四ツ橋 電氣科學館 佐伯恒夫)
 水星金星班 (班長 木邊成麿)
11. 月面課 (課長 伊達英太郎)
12. 掩蔽課 (課長 兵庫縣武庫郡住吉村字大藏1417 高城武夫)
13. 歷史研究課 (課長 兵庫縣武庫郡本山村岡本高石344 井本 進)

會員に関する報告 (18. 10. 30 縮切)

- 【入會者】** 阿部 芳男(東京) 井苜 義幸(山形) 久山 秀貞(豊中)
 ×井上 幸夫(人吉) ×上春 穰二(高松) ×齋藤 昌利(廣島) ×西脇 豊次(東京)
 貴志 武治(茨城) 青山 明星(朝鮮) 寺師道夫(鹿兒島) 秋山 教(静岡)
 大田 隆廣(東京) 川谷 猶一(高知) 福地誠一郎(東京) ×百枝 繁久(東京)
 木俣三郎(名古屋) 木村 健一(京都) 若林 秀雄(東京) 池野 利之(大阪)
 楠田 治雄(大阪) 島内 剛一(東京) 屋田 博(東京) 北川 晃(大阪)
 大熊 敏治(東京) 安田 孝(大阪) (×印は觀測部入部を兼ねぬ)
- 【觀測部入部】** 青木 進(東京) 倉田 好夫(松阪) 山口 研二(松阪)
 鈴木 弘(松阪) 久瀨 正(三重) 牧瀨 義博(大阪)

注意: 御移轉の節には直ちに(前住所をも並記して)御通知下さい。なほ觀測部の方はその旨附記して下さい。(東亞天文學會事務局)

1944年

一月の天象豫告

對英米の決戦態勢を堅く持して茲に昭和19年を迎える。いつも年頭は正月氣分に紛れて、四分儀座より現はれる流星群を見逃し勝ちであるが、今年は新月が過ぎたばかりで、一月3日が上弦であり、夜半には月が西へ没するから、何の妨げも無く、此の流星群を觀測し得ることを忘れてはならない。

月は其れから10日に満月となり、19日に下弦、26日0時24分に新月となる。従つて、我が日本標準時で言へば此の26日が舊正月朔であるのだが、支那では新月が25日23時24分となり、つまり25日が正月朔に當るわけである。

太陽は6日に小寒、21日に大寒の氣節となり、星座は射手座を東進する。3日は地球へ最近距離14700萬キロであり、視直徑 $32'36''$ である。黒點の觀測者は高緯度の新群と、低緯度の舊群とを別々に報告されたい。

水星は年頭に宵の星であるが、離角は漸次に減少して、月末には太陽と會合する。

金星は昨秋以來つゞけさまに曉の明星である。太陽からの離角は少しづつ減少するが、決して著しいものではない。しかし、地球からの距離が遠ざかると共に、視直徑が小さくなつて行くのと、光度も衰へて行くのが眼立つ。

火星は昨年末以來、幾らか距離が遠くなつたが、しかし、視直徑は年頭に $9''$ 、月末に $6''$ の程度であるから、熟練家は尚ほ觀測時期中にあると言はなければならない。天頂角は小さい。しかし、大氣の亂れによる影象は良くないかも知れない。

木星は早朝に東天から昇る時刻が漸次早くなり、觀測には益々好都合である。衛星の蝕の現象を、只楽しむだけでなく、精密に觀測されたい。

土星は昨十二月に對衝となつた直後であるから、寒空を忍んで、觀望にも、觀測にも好機である。

天王星は牛座、海王星は乙女座で、何れも天文年表(恒星社版)の星圖をたよりに觀望されたい。

小遊星は、セレスが昨十二月24日に、パラスは十月18日に、ユノは七月12日に、エスタは十二月5日に、何れも對衝を経た。ユノ以外は本會急報をたよりとして觀測し得る。

天界 第269号

昭和18年12月25日印刷
昭和18年12月28日發行〔定價(券)金 68 錢〕合計金73錢
〔特別行爲稅相當額5錢〕送料金1錢編輯兼
發行所

滋賀縣滋賀郡眞野村大字眞野513

〔東亞天文學會(振替大阪56765)
(代表者山本一清)〕
〔日本出版文化協會第2種會員(第220038番)〕

印刷所

京都市上京區上樺木町千本東入

眞美印刷所 橋本岩太郎〔電西陣3702〕

配給元 京都市神田區淡路町二丁目九番地

日本出版配給株式會社